

第23回いたばし国際絵本翻訳大賞 英語部門

『Stop, Thief!』 講評

選考は、前半 28 箇所チェックポイントで1次選考、その後、後半 45 箇所のチェックポイントで2次選考を行いました。残ったのは、791 通のうちの 36 通。この中から、最終選考で特に優れたものを選びました。

アンケートを見ても、今回は去年に比べてやさしかったという声が多かったようです。実際、最終審査に残ったものは、誤訳もとても少なかったです。

そのぶん、動物たちの口調にそれぞれ個性を持たせたものや、遊び心を感じさせる訳も多く見受けられました。

絵本は、読者（子ども）が自分で読む場合もありますが、読んでもらうことのほうが多いでしょう。ですから、声に出して読んだときに、リズムがよく、わかりやすいことは、とても大切だと思います。そういった意味で、生き生きとした訳文は評価も高いのですが、一方で、ついつい原文にはない言葉（「かわいい」とか「怒って」など）を加えたものも散見されました。作者が読者の想像力にゆだねているところは、勝手に訳者の「解釈」を加えないほうが、物語に幅や奥行きが出ると考えています。

では、具体的なチェックポイントをいくつか、挙げていきます。

p. 6

・ took a rope : 犬には手がないのに「綱をつかむ」などが多かったようです。絵を見ても、マックスは「くわえている」ので、「くわえる」（もしくは「もつ」でも OK）がよいでしょう【注:絵本では、絵と矛盾しないことはとても大切だと思います。子どもって、絵をよく見ているので！】

p. 10

・ ” Are you…” nibble, nibble, “…talking to me?” : 直訳だと「『あなた……』カリカリ『わたしに話しかけてる?』」となりますが、「あなた……」でいったん切れるのは、日本語として考えると、やや不自然です。また、マックスの「Stop, thief」というせりふを受けていることから、必ずしも進行形で訳す必要はないでしょう。例えば、「『今のって……』カリカリ『わたしに言った?』」、「『それって……』ポリポリ『わたしのこと?』」などのほうが、自然だと思います。

p. 15

・ He chased the bug up and down the rows of berries until he ran into a round rump with a curly pink tail. : このuntilをひっくり返して訳している方が多かったです（学校では、文法を理解することを優先させるため、そう習うせいかもしれません）。

でも、ネイティブの人はもちろん、文をひっくり返して読んだりしませんし、翻訳の場合は、語の流れに従って訳すほうが自然になる場合が多いと思います。

「おしりにぶつかるまで、おいかけまわした」ではなく、「おいかけまわしていたら、おしりにぶつかってしまった」の順のほうが、時間の流れにも合っていますし、断然読みやすいです。これは、p. 18 の・He chased it around in circles until the bug zipped off through the field. の「until」も同じです。

ちなみに、「ran right into」を「右へはしっていった」と訳している方もずいぶんいたようです。これは、「まっすぐつっこんだ」という意味です。

p. 17

・She swallowed and scowled and rolled onto her feet. : ここは、意味としては、「ブタは（いちごを）のみこむと、かおをしかめて、ごろりとおきあがった」になります。特に最後、立ちあがっているということがはっきりしない訳が多かったです。

p. 21

ヤギの場面は楽しく訳した人が多かったです。「Ma-a-a-x」を「メエーークス」など、原文を活かし、ヤギらしく「bleat」させている訳も（つまり、この bleat は、「あわれっぽく（とか、よわよわしく）言う」という意味ではなく、「ヤギがメエと鳴く」ということです）。

ただし、次の「A green bean fell out of his mouth.」は、ママが「ぼろぼろ」と複数になっている訳がかなりありました。英語の名詞の単数と複数には、よく注意してください。

さらに、ここの bean を「だいず」「えだまめ」と訳した方もいらしたのですが、ここも絵を見ると、枝豆とはちがうようですよね。「インゲンマメ」かなと思います（「まめ」でも OK）。繰り返しになりますが、絵本では「絵」を（子ども読者と同じ熱心さで！）見ることがとても大切です。

p. 25

・” Maybe,” カラスの答えですが、「たぶん」と訳している人がとても多かったです。でも、それだと、「みなかった？」「みてないとおもう」「たぶん」という会話になり、なんだかちぐはぐです。この「maybe」は「Have you seen him?」に対する返答なので、「みたくも」ということです。なので、「みてないようなきがする」「みたようなきもする」のように、カラスたちがてんでばらばらなことを言っている感じを出すと、楽しいと思います。

もう一度ポイントをまとめます。

*誤訳を少なくすること。（文法的に矛盾している点がないか、よく見ること）

*読み聞かせることを前提に、声を出して読んでみることを。

*絵をよく見ること。

*最後に……自分も面白がって訳すこと！ そうすると、読者にも面白がってもらいたいと思うので、結果、いい訳ができると思っています。

では、また来年もぜひ参加してみてください！

英語部門審査員 三辺 律子